

2021

北東アジア交流の翼inしまね

島根県参加者報告



あぼし みゆう

網干未悠

(島根県立大学
看護栄養学部 看護学科3年)



参加のきっかけ

大学で北東アジア交流の翼inしまねのチラシを見ました。

私は、フィリピンや韓国への留学経験があり、高校生の頃から海外に興味がありました。

コロナ禍で、海外の方と交流をする機会が減ったこともあり、ぜひ北東アジア交流の翼inしまねへの参加を通して海外の方と交流したいと思い、参加しました。

このプログラムで 楽しかったこと



各国紹介

日本の紹介だけでなく、韓国・中国・ロシアについて知ることができました。同じ国でも他地域から参加されていたため、実際に行かないとわからないようなことも知ることができ、プチ旅行気分になりました。

意見交換

プログラム4回目ということもあり、外国青年と少しずつ親しくなった中での交流でした。お題について話しながらも、趣味や日常生活についても話し、意気投合すると一気に笑い声に包まれました！

このプログラムで 感じたこと

交流はヒーリング！？

看護実習があるなかで、交流に参加しました。交流が始まる前は上手く外国青年と話せるか、緊張をすることもありましたが、終わってみれば交流はあっという間で、回を重ねるごとに外国青年と親しくなっているのを感じ、とても楽しい時間でした。

コロナ禍・看護実習中で行動制限があることもあり、外国青年との交流は、実習で大変な中でも、いつのまにか私にとってのヒーリングになっていました！

このプログラムから 得たもの

新たな出会い

海外青年はもちろん、しまねの青年までたくさんの人との出会いがありました。しまねの青年とはZoomで打ち合わせをしたり、SNSでもつながることで、楽しく準備を進めることができました。海外青年とは、プログラムの回を重ねるごとに親しくなることが出来ました。新たな出会いに感謝します！

一歩踏み出す勇気

これまで、私はやりたいことがあっても、友人を誘っての参加が多く、知っている人が誰もいない中でのプログラムへの参加は初めてでした。看護実習もあったため、参加を迷ったこともありましたが、海外青年との交流をしたいという気持ちが強くなり、思い切って参加しました。

一歩踏み出し、参加したことで、実習中のヒーリングになり、新たな出会いもあり、貴重な経験をすることが出来ました。

これからの 自分について

2021北東アジア交流の翼
inしまねに携わってくだ
さった方々に感謝します。
ありがとうございました。

私は、将来助産師になりたいと考えています。現在、日本でも多くの外国の方が生活されており、医療の現場でも関わる事が多くあると思います。そのような際は、今回のプログラムでの経験を活かし、積極的に働きかけていきたいと思っています。

海外と直接的に関わる機会
は少ないですが、北東アジア
交流の翼inしまねのようなプ
ログラムへの参加を通して、
海外の方と交流できる機会を
作っていきたいです。